

## アンケートに寄せられた質問に対する回答

※すべての質問に対応しているわけではありません。また、個別事例に係る質問については、個人が特定されるおそれがありホームページ上での回答が困難であることから対応しておりませんので御了承ください。

### 【質問1】

兄や姉が不登校だと下の弟や妹も不登校になる事例がありました。この場合、不登校の原因に該当しないようにも感じました。不登校が日常にあるような家庭環境の場合、どのような手立てが考えられるでしょうか。

### 【回答1】

兄弟に不登校の児がいる場合でも、個人への対応としては、同様の対応になります。4つの代表的な原因がないかの検索、原因が見つければそれに対する対応を行い、すべての原因がクリアされた段階で登校刺激、の順序です。この際、「兄弟が登校していなくてもあなたは登校しよう」「登校できない兄弟は将来働けない大人になる、登校しているあなたは将来働ける大人になる」「登校するのは自分のため」という説明が必要になります。

また、不登校の兄弟個人に対しても4つの原因がないかの検索、原因への対応を行ってから登校刺激、の対応が必要です。そのうえで、兄弟の中に複数名不登校になる児がいる家庭の問題があるはずなので、その家庭の問題に対する介入を行っていく必要があります。学校の先生が家庭に介入しようとする「なんで学校が家庭に口出ししてくるんだ」という話になりやすいので、専門家(スクールカウンセラー、児童精神科医など)からの専門的意見として介入してもらうのが話が通りやすいです。

### 【質問2】

学校にはSSRが設置され、別室登校をしている生徒がいます。ただ、SSRから教室への復帰が難しかったり、「じゃあ、私もSSR登校したい」という生徒が増えている現状があります。杉本先生・江川先生は、教室で勉強する意味を問われた時に、どのように答えますか？

### 【回答2】

教育を含め、すべてのサービスはサービスを受ける人の特性や準備状況に応じて個別化されたものがより良いサービスになります。集団へのサービスは必然的に最大公約数的なサービス提供になります。その意味で、もしSSRで個人の特性や学習進度に合わせて個別化された教育が提供されているのであれば、すべての生徒は

SSR に行った方がよりよいサービスを受けられることとなります。しかし多くの学校では、SSR で十分な教育サービスは受けられません。学習の進め方は本人の意欲によるところが大きく、潜在的な能力を最大限引き出すことは難しい環境であることが多いです(普通級以下であることが多い)。

この現状を見ると、SSR は「負担が軽いから登校はしやすくなるが、学習進度は遅れていく」、普通級は「負担はあるが、一般的な学習進度を維持できる」という点が SSR と普通級のメリット・デメリットということになります。この点を生徒の理解できるレベルに噛み砕いて説明するのがよいと思います。そして SSR を利用すべきかどうかの線引きは、登校できるかできないかの瀬戸際にいるなら SSR 利用を考える、問題なく登校できる児なら普通級、というラインになるのだと思います。ミニレクチャーでもお話ししましたが、登校できる→将来働ける大人になる、登校できない→将来働けない大人(引きこもり)になる、という構図があるため学習進度を落としても登校できることに強い意義があります。

ごくまれに、ギフテッドの児で意欲もあり、自分で勉強した方が先に進める、という児がいます。例外的ですが、このような児にとっては SSR の方が普通級よりメリットがある場ということになります。欧米だと飛び級制度があるのですが、残念ながら日本ではギフテッドに対する対応はあまり整備されていません。